

北海道PTA連合会

172号



会 報

札幌市中央区北3条西2丁目共栄火災ビル7F／電話(011)251-6937 FAX(011)210-0929 <http://www.hokkaido-pta.jp>

「教育は国家百年の計」

北海道PTA連合会

会長 黒川 吾基

一年之計、莫如樹谷、十年之計、莫如樹木、終身之計、莫如樹人 (管子)

これは春秋時代、斉の宰相であった管仲の思想の中でも特に有名なものです。この言葉が重要視しているのは人材の養成という点です。一年の利益を考えるならば穀物を植えることが、十年の利益ならば樹を育てることが、そしてもっと長期の終身的な利益を考えるならば、人材を育てることが一番だと管仲は言っております。穀物を植えるとその年の内に収穫ができます。樹を育てると毎年果物を収穫できます。しかし、実が成るまでには「桃栗三年柿八年」の言葉もあるように、かなりの時間が必要になります。国家は更に長期的な計画を立てるべきで、しっかりと長い時間をかけて質の高い人材を育てていけば、最後まで国家の利益に貢献してくれます。だから、「管子」の中で続いて説明されておりますが、

一樹一獲者谷也、一樹十獲者木也、一樹百獲者人也

一つの手間で一の利益を得るのは穀物を植えることで、十の利益を得るのは木を育てること。百の利益を得たいなら人を養う事だと。育成は人材を得るために重要であり、恐らく先見性を持つ古今の人々の共通した認識でしょう。現在、中国語では「十年樹木、百年樹人」と略され、簡単に表されておりますが、意味は全く変わっておりません。実際に木を育てるのに十年、人を育てるのに百年かけると言っているわけではなく、あくまでも木と人とはそれだけ違うという意味のようです。管子の言うとおり国がもっと教育に力を入れて、経済的にも多大な援助を行い、教師への待遇を改善し、教育の質を高めれば、きっと軍事ばかりに頼らずとも物質的にも精神的にも豊かな国になると……。

日頃よりPTAに関わる役員構成を図る際、「輪番で」という表現をよく耳にします。それほど、その役割は、拒絶する様な嫌なものなのでしょうか。確かに負担がないかと問われれば……。立場上それなりに「負担」はあります。しかしながら、誰かが果たさなくてはならないことですし、反面、経験で得るものもそれ以上に必ずあります。昨年は、手始めに道P連役員の「輪番是正」を訴えてきました。お陰様で副会長の殆どの方に留任して戴ける事となりました。経験から学ぶものは数多く存在します。

今、北海道の人口は5,571,770人(08.3.31現在)。内、札幌市の人口が1,880,138人(08.3.31現在)で、近隣の石狩市、江別市、北広島市、恵庭市、千歳市、小樽市の合計人口は543,851人で、これを差引くと3,147,781人となります。約44%の人が札幌市及びその近郊に居住しており、その他は56%です。人口密度で比較すると札幌市及びその近郊は739人/km²、その他は39人/km²となります。まさに一極集中の状態、過疎化が進む地域は少子高齢化の影響も受けて地域格差を感じる状態です。昨年の日本PTA北海道ブロック大会は、札幌市で開催され、2日間で1,500人の参加がありました。今年度は、芦別市で10月4日、5日に開催されます。人口僅か18,701人の衛星都市の為、宿泊キャバも小さく、色々とお負担をお掛けするかと思われますが、今こそ、そんな厳しい環境を抱える地域を応援する意味合いを含め、1人でも多くの会員の皆様の参加をお願い致します。大会の講演会で講師を予定されている「植松 努」氏のお話は、参加される皆様に必ず「勇気と感動」を与えてくれるものと確信しております。

本年度も、常に「過去への感謝」と「未来への責任」を意識し、「変えるべきもの」「変えてはならないもの」をしっかり見極め、今の取り組みが「古き良き伝統」なのか、「悪しき慣習」なのかを充分検証し、改革・改善を推進していきます。次代を担う子どもたちの「為」に、そして次代を担う子どもたちと「共」に、更なる行動を継続していきます。ご理解とご協力を衷心よりお願い致します。そして、共に「やめることなく」行動しましょう。

